

大学図書館問題研究会 京都

〒607 京都市山科区大宅山田町 34 京都橘女子大学図書館 田北十生気付
(Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

大学図書館問題研究会 第20回京都支部総会のご案内

書中お見舞い申し上げます。

さて、大学図書館問題研究会の第20回京都支部総会の開催日程が下記のように決まりましたのでご案内申し上げます。

今月号は、総会議案書の特集とさせていただきました。

記

- 1.日時 1997年9月26日（金） 18：30～20：30
2.会場 京大会館

*総会議案書に対するご意見ご要望は、最寄りの支部委員または支部報編集気付へ8月末までにお寄せください。お待ちしております。

<ミニお知らせ>

7月5日にハートピア京都で開催されました「職員問題」ミニ研究集会は、関東・関西から42名のみなさんが参加され、意義ある研究集会となりました。

この研究集会の詳細については、8月号で特集の予定ですですので、ご期待ください。

目次	第20回支部総会のご案内……………	1頁
	総会第1号議案（活動総括）……………	2頁
	総会第1号議案（活動方針）……………	3頁
	支部委員会たより……………	4頁
	第28回全国大会参加のお誘い……………	5頁
	数珠つなぎ⑱……………	6頁

支部報に関するご意見は最寄の支部委員または編集気付（京都橘女子大学 ☎ 075-574-4118

<FAX 075-574-4124> ♥

kazuodesu@jsn.justnet.or.jp) 田北まで

大学図書館問題研究会 第20回京都支部総会議案

【第1号議案】 1996年度活動総括 及び 1997年度活動方針

はじめに

急激な情報環境の変化によって、大学図書館においても電子化という流れの中で、業務全般に大きな変化が生じています。しかしハード的な環境整備に目がうばわれるだけでなく、そのことに対応して図書館サービスをどのように向上していくかという視点が必要ではないでしょうか。

実際の大学図書館の現場では、図書館員の労働条件の悪化とそれに伴うサービスの低下が心配されています。日々の仕事に追われる中でも、情報の交換や研修の機会は必要であり、そのことが利用者サービスの向上につながるのではないのでしょうか。

大学図書館問題研究会京都支部では、このような状況を踏まえ、図書館員のより高度な力量形成に向けて活動を展開して来しました。

1. 1996年度活動総括

(1) 会員間のコミュニケーションと研究活動の重視

1996年度においては、研究活動の発展と研究会の組織化を含めた会員間のコミュニケーションの場の提供を課題としてきました。

研究活動については、秋の研究集会につづいてこの夏7月に2回目の開催を準備するなど例年より前進することができました。反面その準備に追われ、会員間のコミュニケーションの場を促進する取り組みが、支部報を通じて以外はできませんでした。

今年度特筆すべき動きとして、立命館大学で定期的に班会が開催され、内容も時宜に適した会員のニーズに応えるものとなっており、今後の発展が注目されます。

(2) 第5回大学図書館員京都研究集会

今年度は、11月10日(日)に立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて、第5回大学図書館員京都研究集会「ホームページをつくる」を開催しました。このテーマは、前年の第4回大学図書館員京都研究集会「インターネット入門」の続編として企画されたもので、前回参加者からも開催の要望が出ていたものです。講師は前回と同じく津田圭司氏(立命館大学教育研究システム課)にお願いし、実際にパソコンに触れて実習する形式をとりました。

参加者は18名で、内容はわかりやすく概して好評でした。

(3) 「職員問題」ミニ研究集会

7月5日(土)にハートピア京都(京都府立総合社会福祉会館)において「職員問題」研究集会を開催しました。それまでに2月以降毎月支部委員会で討議を重ね、近畿各支部にも協力を要請してきました。私学では司書資格に関係なく行われる配転、アルバイトの増加、派遣職員の導入、業務の外注化。国立では九次にわたる定員削減、そのもとでの不

合理的配転、定員外職員の増加などで職場の雰囲気ゆとりがなくなるなど、単に司書職制度の確立という長期的展望だけでなく、現場の実態を労働条件や権利、サービス向上の視点から深くつかんで再整理する必要があります。そのため個別の実例報告やアメリカの司書の実態について報告してもらい、認識を深める方向で集会を準備しました。

(4) 支部報

支部報については、毎月の発行を行うことができました。

この支部報は、会員のコミュニケーションの場、会員の発表の場の提供、支部活動の報告など極めて重要な役割を担っています。

昨年度にはじまった「大図研京都数珠つなぎ」は149号で18回を重ね、多くの人に執筆の機会を提供するとともに、会員間のコミュニケーション促進に一定の役割をはたしています。

支部総会や研究集会、5支部新春合同例会、全国大会、その他の集会の報告・感想記事、書評、自著紹介などを掲載しました。

また、現場に役立つ記事としては、パソコン通信入門講座を4回にわたって掲載しました。支部委員会の討議内容も報告するように努めました。

(5) 財政活動

財政活動は担当委員の奮闘によってかなり改善されました。しかし、支部委員会全体の取り組みにはなりません。一層取り組みの改善が望まれます。

昨年会計監査から特別事業基金についてその運用の展望が必要との指摘を受けました。この基金は『京都の大学図書館』出版の際資金繰りに苦勞し、何か大きなイベントとか出版とかしようとしたらいかに大きなお金が必要かを痛感し、そうしたことに備えて基金が設定されました。以後毎年可能な限り節約しながら営々として積み立て、やっとなんかの金額にまでなったところです。今年度はまだこの基金を何に使うかまでは具体化しませんでした。この程度の基金は長期的に見て必要だということは確認したいと思います。

2. 1997年度活動方針

(1) 研究活動のさらなる発展と会員間のコミュニケーションの重視

今年度も研究活動の充実をはかるとともに、会員間のコミュニケーションを促進するため支部報の発行をはじめ一層の努力をします。また交流会の開催をはかり、財政補助をするなどの措置をとります。

(2) 研究集会について

今年度は大学図書館をめぐる状況についての討論会を実施する予定です。

(3) 支部報について

今年度も毎月の発行をめざします。

内容については、会員の多様なニーズに応えるよう努力します。

読みやすい紙面づくりを心がけます。

できるだけ多くの人に執筆していただけるよう努力します。

(4) 会員を増やす活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。特に若手の会員を増やし組織の若返りをはかることを重視します。

(5) 会費を全員が全額を前納します。

会員としての義務である会費納入を全員が確実に行いましょう。
財政活動を一層前進させるため、支部委員会においても担当者任せに陥らないように原則として毎回担当者から報告と提案を受け、討議するなど集团的取り組みを強めます。

(以下の議案は当日配布)

- 【第2号議案】 1996年度決算報告**
1997年度予算及び会計監査報告

- 【第3号議案】 1997年度支部役員選挙**

支部委員会だより

第12回/於・同志社大学クローバーハウス/7月1日(火)午後7:00～

【主な議題】

- ① 支部報編集内容について(7月号、8月号、9月号)
原稿依頼状況の確認、掲載内容の調整。
- ② 「職員問題」ミニ研究集会について
各テーマと報告者、プログラム、参加申込状況、当日の役割分担、会計などについて検討
- ③ 総会について → 9月26日(金)18:30～20:30 於 京大会館
総会議案書、予算・決算について検討。
- ④ 会費の納入状況と会員現勢。会員の異動について
- ⑤ 全国委員会の報告と全国大会の日程と参加について
日時 8月23日～25日 会場 つくし会館(宿泊先 アークホテル)
■ 出席:篠原、竹本、大館、中嶋、井上、堤、田北

大学図書館問題研究会 第28回全国大会参加のお誘い!

☆と き 1997年8月23日(土)～25日(月)
(受付開始 8/23 12:00～解散 8/25 12:00)

☆ところ 都久志会館(財団法人福岡県教職員互助会)
〒810 福岡市中央区天神 4-8-10

- ☆議案 <第1号議案> 1996/97年度研究活動報告、1997/98年度研究活動計画
<第2号議案> 1996/97年度決算報告、監査報告、1997/98年度予算案
<第3号議案> 1997/98年度全国委員、会計監査の選出

☆課題別分科会

- | 午前 | 午後 |
|-----------------|-----------------|
| (1) 大学図書館史 | (7) マルチメディアと著作権 |
| (2) 資料収集と蔵書構成 | (8) I L L |
| (3) 逐次刊行物 | (9) 土・日・夜間開館 |
| (4) 資料組織と主題アクセス | (10) 図書館システム |
| (5) 専門職制度 | (11) 建築と設備 |
| (6) 利用者サービス | |

☆主題別分科会

- (1) 人文系
- (2) 社会系
- (3) 自然系 (理工系/生物・医学系合同)
- (4) 教育系

☆自主企画 「大学改革と図書館の役割」ほか

☆討議資料

討議資料は、「大学の図書館」N0283 第16巻6号 1997・6に掲載されています。

☆参加方法

(1)参加申込先

郵便振替口座 01710-6-62147
大図研大28回全国大会 (福岡)

(2)問い合わせ先

E-MAIL yamakasa@lib.kyushu-u.ac.jp
P H S (留守電) 050-959-8745 (大会期間中も連絡用に利用を)
F A X 092-672-3821

筑紫女子学園短期大学図書館 山本鉄二郎
T E L 092-925-3511 内線 251 (午後1時～5時)
西南学院大学図書館 品川 寿子
T E L 092-823-3426 直通 (午後4時～6時)

(3)参加費等

参加費 6,000円 (1日のみの参加は3,000円)
懇親会費 6,000円
宿泊費 7,500円 (1泊朝食付き)

(4)宿泊先

アークホテル博多 (西鉄福岡駅、地下鉄天神駅より徒歩7分大会会場より徒歩10分)
TEL 092-781-2552 〒810 福岡市中央区天神 3-7-22

☆申込期限 7月25日(金)必着

*公文書の必要な方は、大学図書館問題研究会事務局まで

TEL 03-3482-1181 内線396 (長谷川) FAX 03-3761-0590

E-MAIL hase@alpha-net.or.jp

「数珠つなぎ」のルール

①内容は硬軟自由。②原稿量も1ページ程度以上で自由。③執筆者には次回執筆者を指名する義務があります。④指名された人はもちろん拒否権なし。

●—●—●●●—●●—●—●●●—●—●●—●●●●—●—●●—●—●●●●—●
 | 戦慄の新コーナー!! ●

● 国際日本文化研究センター みわきたえみこ |

● 大図研京都数珠つなぎ 第18回 資料課 川北恵美子 さん ●

サービスの最前線では、今

図書館員の使命は！と大上段に振りかぶる気はサラサラありませんが、図書館員の醍醐味はと問われれば、利用者の求める資料にたどり着いたとき、利用者と共に感じる喜び、と答えれば格好つけすぎでしょうか？

京大大型計算機センター図書資料室に22年、京大附属図書館図書館図書受入掛に3年。今度は文部省大学共同利用機関・国際日本文化研究センター図書室と足掛け25年の図書館員生活ですが、選書から閲覧貸出まで何でもありの自然系小規模図書室、年間9万冊余の図書に登録番号を付与する大規模総合図書館、国内外研究者と少数の博士課程学生をサービス対象とする中規模人文系図書室、と三者三様の図書館・室を巡ってきて、「図書館業務はサービス業である」と実感しています。

と同時に、選書から受入、目録作成、装備や、また利用者には決して知られることのない数々の作業を経て収集された資料を、利用者到手渡すサービス窓口の責任は重大だと、改めて感じてもあります。

久しぶりにサービスの最前線に立って、何より相互利用業務のスピードアップに驚いています。なんと便利になったのだろう、と感心しきりです。外部図書館との文献複写・現物貸借業務の件数は、日文研でも毎年倍々ゲームで増えています。特に依頼が。

依頼して、早ければ翌日、遅くとも一週間以内に文献や図書が手元に届くという便利さを一度経験した研究者や学生にとって、オンライン相互利用システム(NACISIS-ILL)はもう研究に欠かせないものになっています。特に日文研のように、歴史が浅く、資料数がまだまだ少ない機関にとっては、何とも力強い味方です。

が、まてよ。ということは、裏を返せば、受け付ける側の仕事量も倍々ゲームで増えていることになりませぬ。

相互利用とはいいつつも、歴史が古く、蔵書量の多い大規模な図書館に依頼が集中するのは如何ともし難く、この業務量のアンバランスがやはり一番の問題点のようです。

NACISIS-ILLのサービス開始以来、相互利用業務の量は爆発的に増え、要員の増員が急務との話は常々耳にしていました。しかし、その量たるや私の想像を越えるものでした。相互利用業務を、知的資源の有効利用と研究・教育活動支援の大きな柱と位置づけ、金と人、特に人を重点的に補強する必要性を痛感しています。

何年かぶりにカウンターに立ち、新鮮な気持ちで利用者に接して(といえは聞こえはいいが右往左往ばかりの)2カ月が過ぎました。疑問や問題点や困ったことが出てくるのはこれからです。その時こそ大図研のネットワークが頼りです。